発行所
三池炭鉱労働組合
大牟田市不知火町二
電話3033番
編集兼発行人　平島敏治
三鉱労組印刷工場

# 組織分裂策動と闘う
## 京の上労組に支援を送れ

九州炭労臨時大会や県総評大会で物心両面の支援決定をみた京の上労組（港手都）は、春季賃闘で始めて対角線交渉方式で直接炭労の指導で闘いを組織し、大手同様ロック・アウトをうけた。これに対して、三菱新入、貝島労組の応援を得てロック・アウトを撤回させ、十四円のアップと、特殊公休出勤一〇〇％（二五％上げ）普通公休出勤三〇％（五％上げ）深夜手当（三％上げ）の賃金協定を結んだ。「中小鉱で法律を守って経営したらつぶれる」と広言する会社は、創立以来初めてストライキを敢行した組合が成功したことに対し、将来のことを考え、対策として組合を分裂させ、炭労を脱退させることがもっとも早道だと考え、組合の切崩しに出たことが、京の上闘争の原因である。

### 賃上げへの報復

会社は企業合理化に名をかり、徹底したサクシュ形態をつくり、個人能率二十五トン（三池の場合は約十トン）という脅威的能率を上げ、昭和二十一年九月三菱より鉱区分譲をうけ事業開始し、約十年間に五億から七億の私財をためているにもかかわらず、賃上げによる支払増加分をとりもどすため、簡単なベルトコンベアーを設置したのを機械化採炭といって、一方的に二函三〇円の単価を切り下げた。

このため組合が闘争の準備をはじめたのでこの出鼻をたゝき組織を無力なものにするため、第二組合結成の援助を与え組織分断の策謀の実施に入り、勤労主任は野上鉱前記信下（第二組合長）畠田（第二組合書記長）などが五月十五日寮で音頭とり、福利厚生に不満がある、今後は寮独自で会社と交渉するとアジつて、勤労主任や係員とともに翌日直方の食堂の二階で第二組合結成の準備会をもつた。この場合一切の指示は勤労主任がなしている。

### 主謀者は勤労主任

この席で勤労主任は「組合長をやめさせる目的である。身の将来は心配するな、すべては自分に任せて大いにやれ、我々に勝利が見えているから心配せずに早急に決行せよ」といゝ「炭労、新入（現在指導の責任組合）何ものぞ心配するな」と気声をあげた。

この支配介入に力を得た会社のヒモツキ連は寮で第二組合結成の署名運動がはじめられ、これに対して組合は対抗策として組織防衛の署名運動を展開した。

結果としては第一次脱退者として四十三名（寮生がほとんど）が出た。

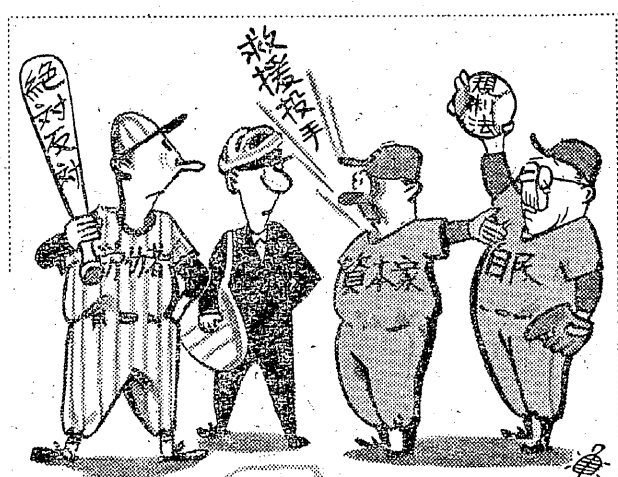
### 無謀!! 強制配轉

会社は第二組合の結成に成功すると、会社は一方的に第二組合員を新坑に集約し（第一組合が実力行使を行つた時の準備工作）新坑に稼働していた第一組合員十名（含組合執行員）を本人の意志に反して一坑に配転し、新規採用者は第二組合に加入することを前提として採用している。

組合は第二組合結成の首謀者を査問委員会にかけ除名するとともに不当労働行為については地労委に提訴し、賃金の一方的切下げ反対、強制配転換反対、会社の組織分裂策動の排除を指標として闘い、賃金問題の一部分の解決のみで現在まで強力な闘争を展開している。

炭労では現地に京の上闘争対策本部を設置（炭労、新入、貝島、小倉、組合執行部）し、九月中に内部態勢の強化に重点を置き、十月十五日を闘争の頂点とし、具体的な戦術を組んで闘いを展開する。

十月八日よりの一時間時限ストと決起大会には、主婦会の評議員会を前日に現地でもち、三池より九名の評議員とニュース・カー「はたかぜ」を支援に出すことを決定している。




## 書記局便り

| | |
|---|---|
| 卅日 | スト規制法延長反対総決起大会 |
| 一日 | 健康理事会 |
| 〃 | 労働部長会議 |
| 二日 | 編集会議 |
| 三日 | 西鉱連総務部長会議 |

## 人望の無い社長

現在会社側は、炭労が京の上問題にこのように力を入れるとは考えていなく、第二組合の勢力の助長と勤労の圧迫で組合が分解すると判断していたが、全組合員が一致団結して職場闘争を行うなどと予想もしていなかつたらしい。安永社長は裁判はメシよりも好きといつて、どんな小さなことでも告訴し第一組合をシゲキさせ御官介入の口実をつくり、炭労対権力の闘争に切替えようとしている。

第二組合は発足当時は四十三名であつたが、会社の政策的採用で約百名になり、当初は組合事務所を襲撃したり、いやがらせをなしているが、現在はデマ宣伝にヤツキとなつている。

周辺の農民は安永社長に対する個人的感情は極めて悪く三菱鉱区の盗掘については何時でも証人になるといつている。又鉱害保障、町政の改革（町長と安永との貯水地移転をめぐる不正等）のために共闘を行いたいとの声を出し、現在まで数回話合がもたれた。

官憲は安永社長に対して出判的で現在のところ組合に好意的である安永社長、植木総務（前木屋の瀬署長）全炭鉱某幹部が直方警察署長および地検に圧力をかけているらしいが、中立的な立場をとつている。

### われらの闘いだ

前述の様な苦しい闘いの中で、京の上労組七十二名の組合員と家族は極めて固い結束と態勢をとゝのえ、この闘争に勝ち抜くことこそ労働条件をつみあげ、京の上を自分達の安定した職場にすると緊張している。

県評も九炭労もこのチツポケな組合に力をいれるのは、この闘いに負けたら中小対策は完全に失敗しそのシワ寄せはやがて大手の賃下げと、首切りになつて現れてくることは必至で、この闘いを勝たせてこそお互いの労働者が安定職場をつくり得るのである。

**支援しよう京の上同志へ。**

## 前進
## 徹底した大衆討議を
### 炭労臨時大会に寄せて—

来る十八日より二十一日までの四日間宇部市で炭労第十六回の大会が開催されるわけで、すでに議案の抜粋も全組合員に炭労新聞を通じて配布してあるので、再度ここでその一つ一つを蒸復させ、さらに云々する必要はないと思う。

然しながら、何はともあれ今次大会の主眼とするものが「賃金期末手当闘争をどう進めるか」にあるので、我々も特にこの議案については真剣な討議と十分な理解が出来なければ、折角の大会の目的も成果が挙るどころか、逆に当初からの発足に当つて支障を生ずる心配がある事を我々はやはり認識して置かなければならない。

今回の賃金、期末手当の要求方針の組み立て方が、過去の方法により相当に大衆化してきていることは、去る八月各地で開催された職場討論会の中の一つ一つの生の意見や率直なる批判を基礎に立てられており、その内容が議案説明の一頁一頁に意向が盛られている点からも我々は理解出来るが、ではそれだけで十分であるかと云えば必ずしもそうでない。又組合員の切なる要望なり意見なりと要求の内容がぴつたり合つているかどうかといえば、執行部としての問題点を大衆討議の一資料として提起している様に、我々としてはまだまだ見解を述べたい点も多々ある筈である。

そこで我々はさらにこの要求を我ものとするためにあるいは血と肉とするためには、もう一度徹底的な下部大衆の討議を必要とするわけで、現在すでに各現場でその討議なり研究なりが進められているものと思う。これはただ形式的なうわべの飾りだけの民主的な方法というような浅薄なものでなくて従来の欠点を大いに自己批判し発展させて一人一人が討議に討議を重ねる必要がある。

その方法としては、色々の方法があるであろう。又職場の実情からして若干の相異もあるでしようが、すくなくとも一時間の休憩時間の利用はどの職場でも、坑内のどの現場でも出来る筈であるのでその機会を利用してお互に討議を行つてもらいたい。勿論そのためには職場の分会長なりあるいは委員なり代議員なり夫々の任務をもつている人達が指導を行われるであろうけれども、要は各人の熱意と努力がより必要である事を強く主張し、職場討議の徹底を希望したい。

つぎに議案説明によると、最近の経済状勢は活況から好況への歩みを続けるであろう、と将来の見透しを述べているが、その分析は勿論当を得ているものと思うけれども、我々が特に注意しなければならないことは、賃金や期末手当は景気が良いということで、今にでも上る、あるいは獲得できると思つている人が中にはおられるかもしれないが、「資本主義」というものはそれ程甘い、善意のものではないことは我々は過去の体験からして十分身にしみているところである。

要は我々自らが要求し、そして我々の団結の力で要求を獲得する以外には、労働者の活路はないことを重ねて述べ、来るべき大会へ三池の総意を披れきしたいものである。

## 悪法擴大を企圖

資本家の代弁者である政府や自民党は八月六日で期限の切れた「スト規制法」を次の臨時国会に延長提案しようとしている。

しかし最近の政界の混乱からこの延長が困難になつてきているが、これが失効した場合は、労働省としては、電気事業、石炭鉱業はもちろん、これを拡大して私鉄、ガス事業、銀行をふくめた新しい法律をつくり、今までよりも強化しようという意見が起きている。

具体的には私鉄には運行を止めることを禁止、ガス事業には供給停止の禁止、銀行には現金受払い停止の禁止を考えている。

## 砂川町再び緊迫
### 調達廳強行測量のハラ

米軍立川基地拡張に反対しつづける東京都砂川町に対し、調達庁はいよいよ一日から第二次精密測量にとりかかつた。調達庁では十六日までの認定期間中に警官隊援護の下にでも測量強行の意向をかえず、地元でも支援団体連絡会議をつくり、昨秋よりもはるかに広範囲な阻止態勢を整えている。一方ではこういう事態をもたらした「日米行政協定の土地使用法」の無効を主張する法廷闘争もはじまり、問題の根本的な解決を求める機運もつよくなつてきた。

### 常時三千人を動員

十月一日、砂川町は調達庁の第二次強制立入り期間を迎えいよいよ緊張の度を加えてきた。この日午後から地元役場で米軍代表者会議をひらいて、強制測量を阻止する体制について討議、四日から常時三千人を動員することをきめた。

またこの日バス三台を連ねた基地問題文化人懇談会、砂川弁護団百四十人の一行、バス六台に分乘した四百人をこえる全学連激励団などが現地を訪れ、地元側と懇談、激励した。

なお、富士、新潟、木更津などの基地代表も現地に泊り込んで実力闘争に参加することになつており激励電は全国各地の労組などから多数よせられている。

### 安井都知事に質問状

十月一日、砂川町を訪れ、地元民を激励した基地問題文化人懇談会は「各人の専門分野の活動を生かし支援団体と緊密に協力しながら一層広はんな世論を喚起し、強制測量に反対して砂川問題解決に努力する」との声明を発表するとともに、砂川問題について安井都知事の責任を問う公開状を発した。

この質問状は当日の参加者全員の賛成をえてきめられたもので同会ではなお多くの知名人に署名を求める予定である。

## 創作　入選三席
# 一人の鉱夫（三）
前田風太郎作
久慈悠一画

紺のスカートに半袖の真白いシヤツを身に着けているばかりの君枝だが白い顔の真中にすうつと通つている鼻の線は、それだけで美しい女としての素質を示すのに十分な様に思われ、時々熱情的にきらめく瞳の激しさは一緒に歩いている行一の心を捕えて放さなかつた。こんな君枝の姿を、目ざとい坂本は涼を求めてひしめいている人波の中にも、一瞬、宝石をあさる様に見付けてしまつたのかも知れない。

三吉と云う所は、M坑の中でも最も坑口より離れた切羽の先端にあつた。そのせいか通風状態も他に比べて劣り、異常に上つた温度は切羽内で仕事をしている鉱夫達をむす様にし、高度な湿度と共に汗でびつしよりになつている鉱夫達の頬を煮るかの様に思わせ、水で顔を洗えば頬が、熱を出す様に何時までも熱つぽかつた。

行一が、枠張の材料である坑木を二十本ばかり切羽の詰に入れるのに午前中かゝつてやつと終え、昼食の休みに休憩所に行くと、彼の前へ草田がやつて来て押し付ける様に云つた。「今晩、家に来れんかね？　君枝のことで一寸話したい事があるんだ」

天井に無造作に突立てられた坑木に、下から当て木をして板を乗せたばかりの腰掛に、鉱夫達は昼の休みを取つて居た。首を折り曲げる様にして頭をやつと坑木に持たせかけて、それでも真黒に汚れた顔は、さも疲れた様にして眠つている鉱夫もいた。腰掛から身を乗り出す様にして、後に居る者と雑談を交しているものも居た。ここでは疲れ切つた身体と、汗くさいにおいとで当りの空気が侵されてしまつて全てのものが活動を止めてしまつたかの様に思われた。たゞポンプの音だけが鋭く一杯の働きを示して響えて来た。

その様な辺りの空気の中で草田は、何かじいつと物思いにふけつている様だつた。彼の頭の中は君枝の事で今一杯だつたのである。

奇妙にこの草田の頭を休ましてくれないものは、近頃急に仲よくなつたらしい、行一と君枝の間のことである。妹も女であるから恋もせん訳ではないとは分つていながらも、又一面には妹達をこのまゝに捨て置くとそこに免れ得ない不幸が起つて来そうな気持にもなるのである。彼は昨日、妹にこつぴどくやられた事を思い出した行一の事をそれとなく遠回しに忘れろと君枝に意見したのである。感ずる事の速い君枝はそれでもしばらくは黙つて兄の話を聞いていたが、遂に根負けした兄貴が、親の代りみたいな、扶養の恩をきせて来るとも黙つてはいなかつた結局、弱身を見せた草田はさんざん云い負されてしまつた。